

鳥類



36頁 どこにどんな鳥がいるのかな？

38頁 鳥類を見るポイント

42頁 鳥類の図鑑

似ている種類を見分けよう！
102頁 シラサギの見分け方

似ている種類を見分けよう！
104頁 ホオジロ類の見分け方

鳥類

どこにどんな鳥が
いるか主な種類に
ついて、おおよそ
の位置を示してみ
たよ。他にも自分
で見つけてみてね！



コミミズク



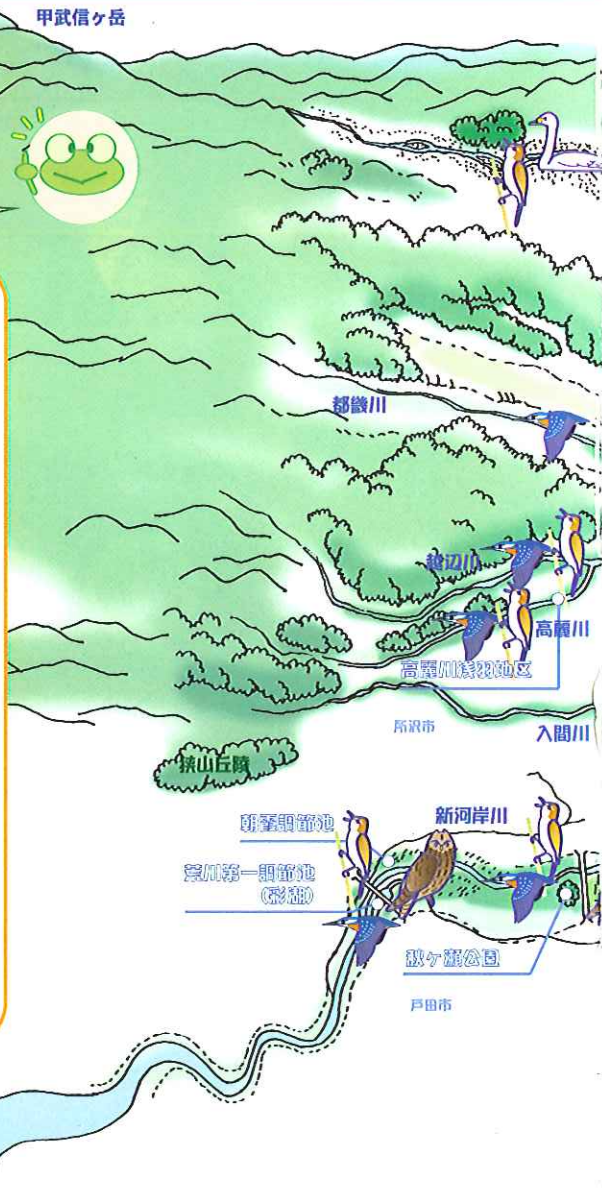
カワセミ

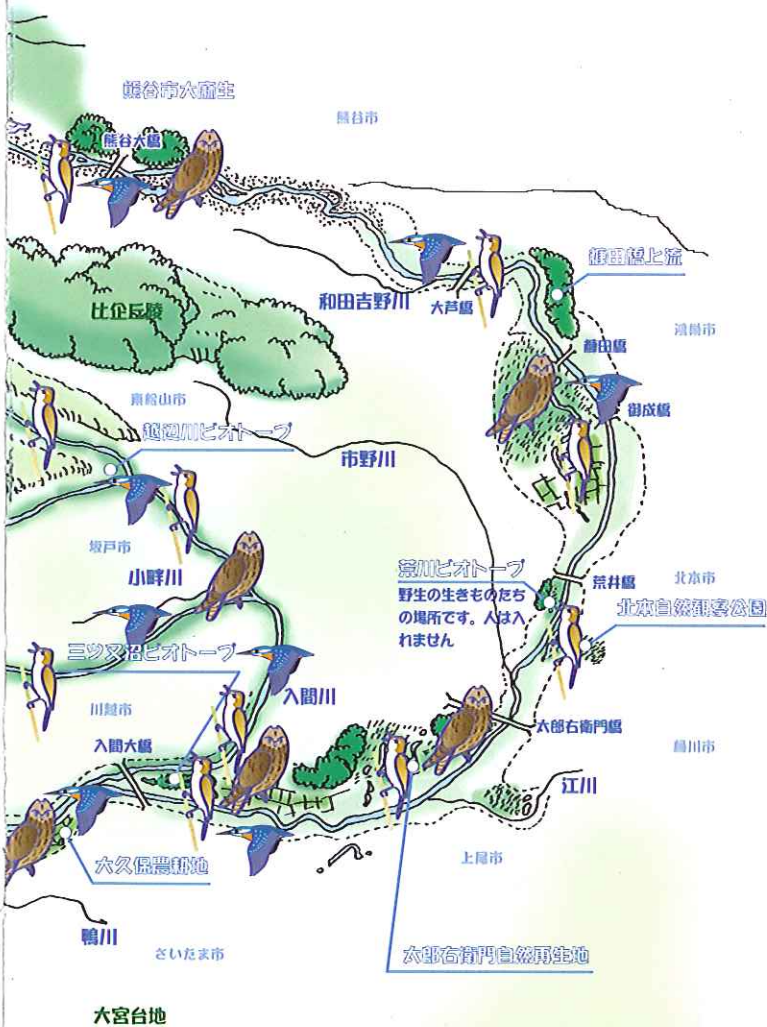


オオヨシキリ



コハクチョウ





鳥類を見るポイント

大きさは？

●カラスくらい



●ハトくらい



●スズメくらい



●カラスより
大きい

●ハトより
大きい

●スズメより
大きい

色は？

赤色



ベニマシコ、ショウビタキ、
アカゲラなど

オレンジ色



カワセミなど

黄色



アオシ、カワ
ラヒワなど

緑色



キジ、アオゲ
ラ、マガモ、
タゲリなど

青色



カワセミなど

茶色



スズメ、カル
ガモなど

黒色



カラス、カワ
ウ、バンなど

白色



サギ類など

灰色



ヒヨドリ、ム
クドリ、アオ
サギ、ゴイサ
ギなど

白黒まだら



アカゲラ、コ
ゲラ、クイナ
など



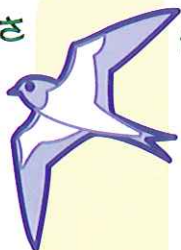
耳をすませば、鳴き声や、
羽はたき、木をつつく音な
どが聞こえるよ。音のする
方向を探してみよう！

形の特徴は？



つばさ、尾、くちばしなどの色や形、特徴的な模様などしっかり観察してみよう！季節やオス・メス、成鳥が幼鳥かななどにも気をつけてみよう！

●つばさ

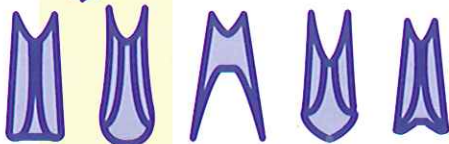


例) 長くとがる
ツバメ類、
チョウゲンボウなど

●尾



例) 長い
キジ、モズ、ヒヨドリ、
セキレイ類など



●首

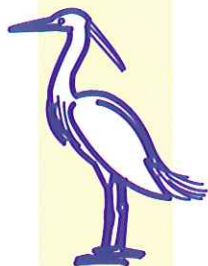


例) 長い
サギ類、カワウなど

●その他



例) 大きい顔
コミミズクなど



例) 飾り羽がある
コサギ、ゴイサギ
など

●くちばし

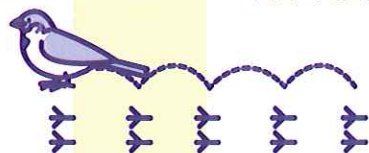


鳥類を見るポイント

どんな様子？

●歩き方

例) ホッピング
スズメ、ホオジロ類など



●飛び方

例) 波打って飛ぶ
ヒヨドリ、セキレイ類など



●止まり方

例) 木に垂直に止まる
キツツキ類



●しぐさ

例) 尾をふる
ジョウビタキ、
モズ、セキレイ類
など



しぐさなどもその種類の
特徴をあらわすよ。何羽
ているか？ 何を食べてい
るか？ など観察してみ
よう！



●その他



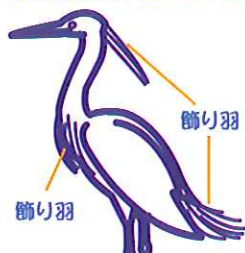
例) 水面に浮く
カモ類、バン、カイツ
ブリ、カワウなど

大きさ

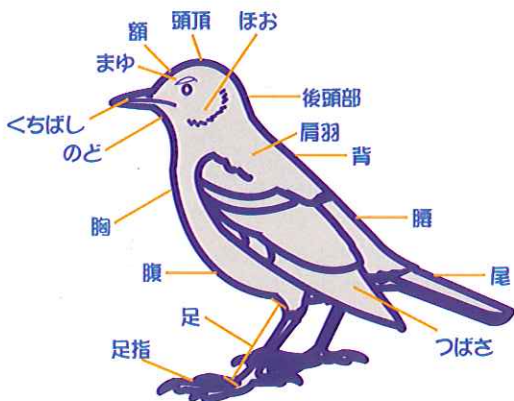


鳥類の用語解説

- わたり注目すると4つのタイプに分けられる。
 - ・留鳥 ある地域に一年を通して生息する種。
 - ・夏鳥 ある地域に夏にやってきて繁殖する種。
 - ・冬鳥 ある地域に冬にやってきて越冬する種。
 - ・通過鳥 ある地域に春と秋のわたりなどで一時的に立ち寄るだけで、繁殖も越冬もしない種。
- コロニー 集団繁殖地のこと。単なるねぐらではない。荒川流域ではカワウ、サギ類、コアシサシなどがコロニーをつくる。
- ホバリング 空中の一点に停止するように飛ぶこと。チョウゲンボウ、コアシサシ、カワセミなどがエサを探るときにこのような飛び方をする。
- 日本特産種 日本だけで繁殖している種。



翼鏡 (カモ類のみ)
つやのあるつばさ



カイツブリ *Tachybaptus ruficollis* カイツブリ科



見られる場所

水辺

2003年6月3日 川島町出丸下郷

池、沼、流れのゆるい川、旧流路などで生活する。

見られる時期

1年中



ハトくらい

26cm



夏羽(生殖羽)

特徴

留鳥。夏羽はほおから首にかけて赤茶色。冬羽は上面が茶色、下面が淡い茶色。一回で数秒から30秒ほど水にもぐることができる。ヨシやマコモがしげる場所で子育てをする。「ケレケレケレ」と鋭い声で鳴く。

●水に浮く巣



カイツブリは、ヨシなどがしげり、身をかくすことのできる場所に水に浮く巣をつくります。巣の下側2/3の材料は、中空の水草を使い、水に沈まない工夫がされています。親はひなを背中に乗せ、大型の魚から守り、ひなの体温を保ちます。



冬羽

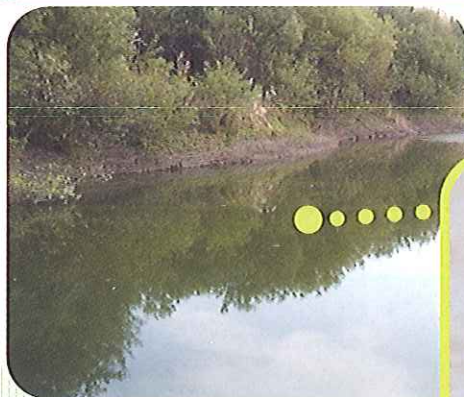
食べもの

魚や水生昆虫などを食べる。



「カイ」ははい、「ツブリ」はもぐるで、すばやく水にもぐるという意味だよ。もぐり上手なので「モググッチョ」とも呼ばれていたよ。

カワウ *Phalacrocorax carbo* ウ科



見られる場所

水辺

2003年10月31日 川島町松永

池、旧流路、川などで生活する。

埼玉県RDB

繁殖地減退傾向(減少)

見られる時期

1年中



カラスより大きい

81cm

鳥類



成鳥

特徴

留鳥。全体に黒色、背と雨あおいは茶褐色。水かきのある4本のゆびはすべて前を向いている。水辺近くの林に集団で巣をつくる。

●カワウの日なたぼっこ



水鳥は、臍のあたりから出る脂を羽にぬりつけ水をはじきます。この羽でおおわれた体は空気を含み、水に浮きやすくなり保温力も高まります。カワウはこの脂があまり出ないので、羽はずぶぬれになります。しかしこの重みを利用してカワウは水にもぐります。ただ、ぬれたままにしておくと体温が下がるのでよく羽を広げて乾がしているのです。

多くの鳥は春から夏に子育てをするが、カワウは冬に子育てをする。



食べもの

川や海の魚を食べる。

ヨシゴイ *Ixobrychus sinensis* サギ科



埼玉県FOB
繁殖率絶滅危惧NT2)

見られる時期
4~9月



ハトくらい
36cm

見られる場所 2003年5月9日 さいたま市桜区塚本
ヨシやガマ類の生いしげる
池、湿地で生活する。

水辺



体長36cmとサギの
なかまでは一番小さ
なサイズだよ。

●忍法雪がくれ



ヨシゴイは敵から身を守るため、首をのばして水草のまねをします。水草のゆれにあわせて体をゆらす様はまるで風景にとけ込む忍者のようです。その化けようは鳥のなかでも神業級です。



若鳥

特徴

夏鳥。体は黄土色。広げたつばさに黒い模様がある。昼間はヨシ原などで寝ている。巣は、ヒメガマの草はらに好んでつくる。



成鳥

食べもの

水草につかまって水中の小魚やアメリカザリガニなどを、くちばしで突き刺してつかまえる。

ゴイサギ *Nycticorax nycticorax* サギ科



カラスより大きい
58cm

見られる時期
1年中



成鳥

特徴

留鳥。頭から背は紺色。幼鳥の目の色は茶色、成鳥は赤色。飾り羽がある。水辺近くの笹やブヤやナギ林で、コロニーをつくり子育てをする。



成鳥の目は真っ赤。



幼鳥

食べもの

アメリカザリガニ、カエル、魚などを食べる。



見られる場所
水辺・林

2003年8月22日 北本市荒井

川や池でえさをとり、林をねぐらにする。



醍醐天皇の命令に素直に従って舞い降りたので「五位」の位をさずけられたというお話（平家物語）があるよ。

●夜の出勤



ゴイサギは、林などにコサギなどといしょに集団ねぐらをつくります。夜行性のゴイサギは昼間は寝ていることが多く、夕方、ねぐらを出て活動をはじめます。ゴイサギがねぐらを出るころ交代で昼行性のコサギやダイサギがねぐらへもどってきます。ゴイサギは夜ガラスとも呼ばれます。

アマサギ *Bubulcus ibis* サギ科



カラスより大きい
50cm

埼玉県RDB
繁殖地(成体)川原(川)

見られる時期
4~10月



見られる場所

水辺・林

湿地や田んぼでえさをとる。



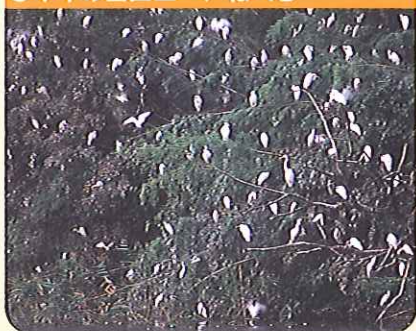
特徴

夏鳥。頭から首がうす茶色。くちばしはオレンジ色。首が太め。冬は全身が白色。(見分け方102頁)

食べもの

昆虫やカエルなどを食べる。田んぼで耕うん機などのあとをついて土から飛び出す昆虫などを食べる姿が見られる。

●サギのコロニー、ねぐら



動物たちが1ヶ所に集まって子育てする場所を「コロニー」、また寝る場所を「ねぐら」といいます。サギ類は何種類かが集まって数百羽~1万羽にものほる規模のコロニーをつくります。エサはコロニーからおよそ半径15kmくらいの範囲内でとっているようです。

ダイサギ *Egretta alba* サギ科



カラスより大きい
89cm

埼玉県RDB
繁殖地減価県川緑川

見られる時期
1年中



見られる場所
水辺・林

2003年5月28日 東松山市下青島郡焼川
川や池、沼、田んぼでえさをとる。



冬羽

特徴

留鳥。くちばしは夏が黒色、冬が黄色。夏には飾り羽がある。集団で子育て（コロニーをつくる）する。川辺などの林の木の上に巣をつくる。（見分け方102頁）



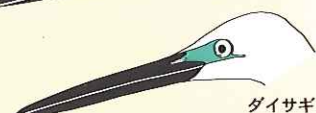
荒川では1年中見られるけど実はダイサギもわたりをするんだ。夏に見たダイサギは冬には南へ移動し、冬に見るダイサギは北からわたってきたものもいるんだよ。

●目先の色

コサギ



ダイサギ



シラサギは子育ての時期になるとホルモンの影響で、目先の黄色の部分が変色します。チヨウサギではあまり大きな変化はありませんが、コサギは赤みがかり、ダイサギは緑色になります。



目よりさらに後頭部よりの位置までくちばしのつけ根が伸びる。

食べもの

魚やカエルなどを食べる。他のサギよりも足が長いので深い水辺でえさをとることができる。

チュウサギ *Egretta intermedia* サギ科



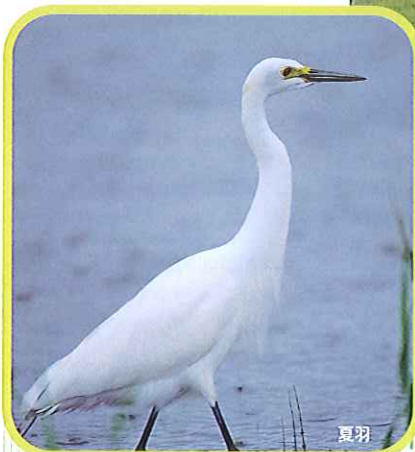
カラスより大きい
68cm

環境省RDB
準絶滅危惧(NC)

埼玉県RDB
絶滅危惧種(II類)

見られる時期
4～9月

鳥類



夏羽

特徴

夏鳥。足は黒色。くちばしは夏が黒色、冬が黄色。夏は飾り羽がある。夏鳥だが少数は冬にも見られる。(見分け方102頁)



食べもの
カエル、アメリカザリガニ、昆虫
などを食べる。

サギ類やカワウは、おどろくといったん飲みこんだ魚をはきもしたり、ふんをしたりするよ。おどろかさないうにぞっと見守ろう！



見られる場所

水辺・林

2000年5月12日 浦和市(現さいたま市桜区)塚本

川や池、沼、田んぼでえさをとる。

●サギが減っている！

埼玉県では、国の特別天然記念物に指定されていた「野田のサギ山」のサギが昭和47年に絶滅し、昭和59年にその指定が解除されました。これをはじめとし、各地でサギの姿が見られなくなっています。ながでもチュウサギは国の絶滅危惧種に指定されており全国的に危機にひんしています。近年、湿地環境はつぎつぎと失われ、田んぼでは農薬がまがれ、サギ類がえさをとる場所が急速に失われたことが原因のひとつとしてあげられます。

コサギ *Egretta garzetta* サギ科



2003年7月22日 坂戸市浅羽

見られる場所

水辺・林

田んぼなどの湿地、水路でえさをとり、林をねぐらにする。

埼玉県RDB

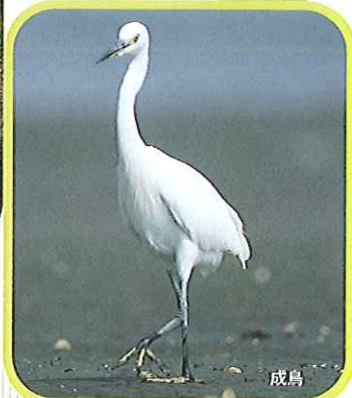
常緑広葉樹林類(Ⅲ)

見られる時期

1年中



カラスより大きい
61cm



成鳥

鳥類

●コサギの漁



足で追い出した
魚をキャッチ！

コサギが水辺で足をふるわせている姿をよく見かけます。コサギはえさをとるとき、足を泥のなかに入れ、ゴソゴソと細かく動かし、魚を追い出してつかまえるのです。

特徴

留鳥。一年中、くちばしは黒色。足は黒色。足指は黄色。水辺の林で子育てをする。(見分け方102頁)

シラサギ類は背中に
美しい飾り羽がある。



食べもの

ドジョウ、フナなどの魚、カエルなどを食べる。

アオサギ *Ardea cinerea* サギ科



見られる場所
水辺

1984年12月
川や池、沼、田んぼでえさをとる。



昔は青灰色を「アオ」と呼んだのでこの名がついているよ。ちなみに英名では、Gray Heron (灰色のサギ)。

●夫婦で協力

アオサギは木の上に巣をつくりま
す。巣材はオスが集め、メスが形を
整えます。近所の巣から巣材をうば
い、けんがになることもあります。

埼玉県RDB
繁殖情報不足(DD)

見られる時期
1年中



カラスより大きい
93cm



若鳥

特徴

日本で最も大きなサギの一種。全
体に明るい青灰色。額から後頭部
にかけて黒色。首の全面に縦斑が
ある。

食べもの

魚やカエルなどを食べる。大きめ
のコイやフナはくちばしで突き刺
してつかまえる。

コハクチョウ *Cygnus columbianus* カモ科



見られる場所

水辺

1994年2月13日 川本町本田
ひらけた水面で生活する。

埼玉県RDB
越冬準絶滅危惧(NI)

見られる時期
9~3月



カラスより大きい
120cm



成鳥

鳥類

●きれいに並んで飛ぶわけは？

大空を逆V字型に並んで飛ぶ鳥を見かけます。大型の鳥が羽ばたくとつばさの後ろに気流の変化が起こります。後続の鳥はこれをうまく利用すると楽に飛ぶことができるのです。飛びやすい位置で飛ぶとおのずときれいな並びになるようです。先頭の鳥の負担は重いので、長時間飛ぶときは、先頭は入れ替わります。



特徴

冬鳥。くちばしの先が黒色、つけねが黄色。足は黒色。家族単位（両親と子）で行動することが多い。1970年代には熊谷市から江南町にかけての荒川で少数が見られたが、現在は川本町で餌づけをしていて100羽以上が見られる。



田んぼなどでえさをとる。

食べもの

水草の葉や実、根や茎を食べる。

マガモ *Anas platyrhynchos* カモ科



カラスくらい
59cm

見られる時期
9～5月



見られる場所

水辺

2003年12月15日 新潟市下内島木

川、旧流路、池、沼、ため池で生活する。



成鳥♂

特徴

冬鳥。シベリアなどからやってくる。オスの頭は緑色、首に白い線、尾羽の上にはカールした羽がある。アヒルの原種。

マガモ、マガン、マヒワなど「マ」のつく鳥はそのグループでもっとも代表的という意味だよ。



成鳥♀

食べもの

草のタネや小さな昆虫を食べる。

●眠るときも身を守る

カモのながまは水面に浮かびながら首を後ろに折り曲げて眠ります。このときの脳波を調べると羽にうずもれている側の頭は寝ていますが、反対側の頭は起きています。構目で敵が来ないか見ているのです。

カルガモ *Anas poecilorhyncha* カモ科



カラスくらい
60cm

見られる時期
1年中



鳥類

2003年5月9日 さいたま市桜区塚本

見られる場所

水辺

川、旧流路、池、田んぼなどで生活する。

特徴

留鳥。体は褐色。くちばしは黒色で先は黄色。ほとんどのカモ類はオスとメスで模様がちがうが、カルガモはオスとメスは同じ模様。最近はアヒルとカルガモの混血と思われる個体が見られる。

荒川の中下流で1年中見られるカモはカルガモだけだよ。



●カルガモ親子のお散歩



食べもの

草のタネ、水草、小さな水生昆虫などを食べる。雑食性。水のなかの有機物をこしとって食べることも。写真ではくちばしのわきからこした水が出ている。



水辺近くのしげみに巣をつくります。初夏には、母カルガモのあとについて泳ぐひなの姿がよく見られます。

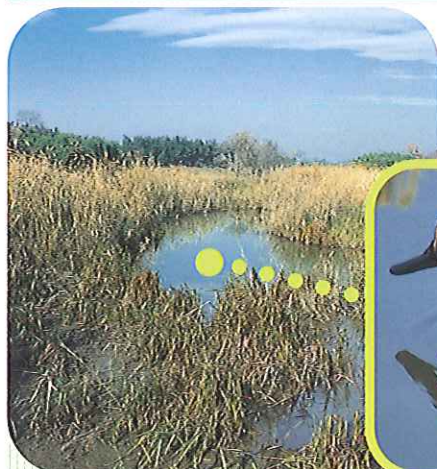
コガモ *Anas crecca* カモ科



ハトくらい
38cm

見られる時期

8~5月



見られる場所

水辺

1999年12月9日 上尾市平方

川やため池で生活する。
ヨシ原などの小さな水面
も利用する。



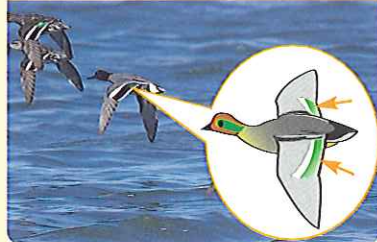
特徴

冬鳥。シベリアなどからやってく
る。オスの腰は黄色と黒色。オス
の頭は茶色、目から後ろに向かっ
ては緑色。



オスは「黄色いバ
ンツをはいてい
る」って覚えよう。

●翼鏡 (よつきょう)



カモ類のつばさの模様は種類ごと
に特徴的です。マガモやコガモには
「翼鏡」と呼ばれるつやのある美しい
羽があります。カモ類は飛んでいる
ときもそれぞれのながまを翼鏡など
で判別していると考えられています。



食べもの

草のタネ、葉、茎などを食べる。

オナガガモ *Anas acuta* カモ科



見られる場所

水辺

2003年12月5日 北本市高尾
川、池、沼で生活する。



尾が長いので
この名がつい
ているよ。

●羽づくろい



羽づくろいによって汚れや寄生虫を取りのぞき、ボサボサに乱れた部分を整えます。保温機能や飛び機能を持つ羽を、いつも良い状態にしておくことは健康な生活のためには欠かせません。

見られる時期

9~4月



カラスくらい
♂:75cm ♀:53cm



成鳥♂

特徴

冬鳥。シベリアなどからやってくる。横顔のシルエットは丸い。オスは尾が長い。オスは腹の白色が首から顔の側面まで伸びる。メスの頭は茶褐色。



成鳥♀

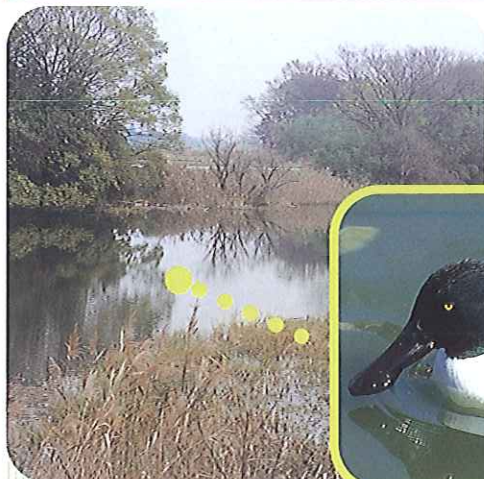


浅い水面で逆立ちをして水草を食べる。写真は上部の葉が食べられている水草のエビモ。

食べもの

水草などを食べる。

ハシヒロガモ *Anas clypeata* カモ科



見られる場所

水辺

2003年12月5日 吉見町古名新田

水草の生いしげ
る池で生活する。

見られる時期

9~4月



カラスくらい
♂:51cm ♀:43cm



成鳥♂

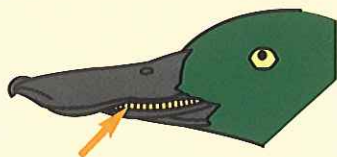
特徴

冬鳥。くちばしは、くつべらのように
先が広がっている。オスは頭が暗い緑
色、背は黒色、胸は白色、わき腹は茶色
で目は黄色。メスは褐色で目は黒色。



くちばしの形
からこの名が
ついているよ。

●こしとって食べる



ハシヒロガモは、上下のくち
ばしの合わせ目がブラシ状にな
っています。幅広いくちばしの
先から吸いこんだ水を、ここで
こし、水面にたどようプランク
トンや植物の破片など細かいえ
さを食べます。サトウクジラな
ども同じ食事方法です。



成鳥♀

食べもの

プランクトンや植物の破片などを食べ
る。雑食性。

ホシハジロ *Aythya ferina* カモ科



ハトくらい
♂:48cm ♀:43cm

見られる時期

9~4月



成鳥♂

特徴

冬鳥。頭から首が赤茶色。水のなかによくもぐる。海でも生活する。水にもぐるカモ類のなかでは内陸の淡水でもよく見られる種類。



成鳥♀

食べもの

もぐって水草を食べる。



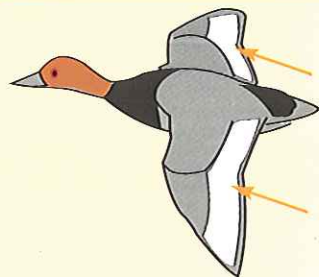
見られる場所

水辺

2004年1月31日 さいたま市緑区
大間木郷水東

やや深い池で生活する。

●ハジロ類



「ハジロ」は「羽白」と書きます。このながまは飛びとき、つばさに太くて目立つ白い帯が見えます。カモ類ですが、マガモやコガモのような翼鏡(よつきょう) (54頁) はありません。

キンクロハジロ *Aythya fuligula* カモ科



ハトくらい
44cm

見られる時期
9~4月



見られる場所
水辺

2004年1月31日 さいたま市緑区大間木郷水東
やや深い池で生活する。



特徴

冬鳥。オスは後頭部に冠羽がある
のが特徴。



食べもの

もぐって巻き貝や二枚貝を食べる。



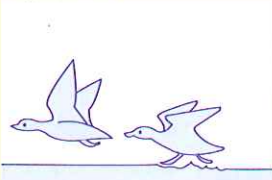
「金黒羽白」と書くんた。
派手な名のわりには遠くが
ら見ると、オスは白黒のツ
ートンカラーに見える。

●水面採餌ガモと潜水採餌ガモ

●水面採餌ガモ



●潜水採餌ガモ



本書で紹介している種類では水面採餌ガモは、マガモ
(52頁) からハシビロガモ (56頁) まで。潜水採餌ガモは、
ホシハジロ (57頁)、キンクロハジロ (58頁)、ミコアイ
サ (59頁)。

カモは、水面に浮かぶものなど
を食べる水面採餌ガモと、水中に
もぐってえさをとる潜水採餌ガモ
に分けられます。その体つきなど
から行動などにもちがいが見ら
れ、たとえば水面採餌ガモはその
場から飛び立ちますが、潜水採餌
ガモは短く助走して飛び立つなど
があります。

ミコアイサ *Mergus albellus* カモ科



見られる時期

9~4月

ハトくらい
♂:44cm ♀:39cm



成鳥♂

見られる場所

水辺

2004年1月31日 さいたま市緑区
大間木郷水庫

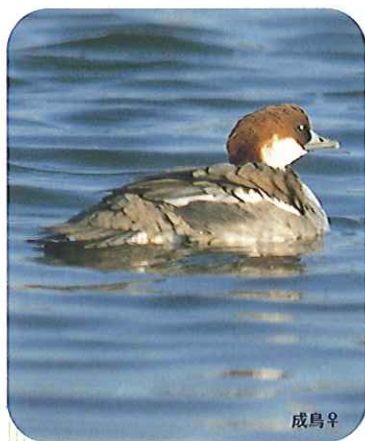
やや深い池で生活する。

特徴

冬鳥。オスは白色と黒色の模様がある。
もぐるのが得意。



「バンダガモ」と
呼ばれているよ。



成鳥♀

食べもの

水中にもぐって魚をとる。

●エクリプス

カモ類のオスの多くは、美しい色彩
をしています。これはメスの気を引く
ためのおしゃれ着です。しかし秋に日
本へわたってきたときは地味な色をし
ています。この状態をエクリプスとい
います。フコボースの時期に羽が生え
かわります。

オオタカ *Accipiter gentilis* タカ科



カラスくらい
♂:50cm ♀:56cm

環境省RDB

絶滅危惧II類(VU) 繁殖絶滅危惧II類(VU)

見られる時期

1年中

埼玉県RDB

埼玉県RDB

越冬絶滅危惧II類(VU)



見られる場所

林

2003年6月3日

樹林と草はら・畑がセ
ットになっている場所
で生活する。



成鳥

特徴

留鳥。目が黄色で鋭い顔つき。成鳥
は頭から背、尾にかけて暗い青灰色。
下面は白地に黒色で細い横斑がある。
巣は針葉樹につくる。近年は広葉樹
にも巣をつくるようになった。

オオタカの
食こん (ホ
オジロを食
べたあと)。



若鳥



食べもの

主にムクドリ～ハトくらいの大さ
の鳥を食べるが、フクロウやカラス
など大型の鳥を食べることもある。

●青葉をしいて清潔に



巣には針葉樹の青葉がしがれて
います。オオタカは、寄生虫の発
生を防ぐために青葉が持つ防虫効
果を利用していると考えられてい
ます。

ノスリ *Buteo buteo* タカ科



見られる場所
草はら

2003年12月22日

荒川では冬に開けた草はらで生活する。

胸が厚いためカラスよりも大柄に見える。



●タカの目はハイビジョン

タカ類の視力は人の5~8倍と考えられています。これは人が双眼鏡で見るのと同じ見え方をしていると考えられます。人で20万個くらいの視細胞がタカ類の場合は150万個あるなど、優れた視力で遠くの獲物を見つけます。

埼玉県RDB
繁殖準絶滅危惧(N2)

埼玉県RDB
越冬準絶滅危惧(N2)

見られる時期
9~4月



特徴

腹は茶色。目は茶色でかわいらしい顔つき。つばさは幅広い。夏は山で生活する。

タカ類は全般に、晴れた日のお昼ごろ、上昇気流に乗って飛んでいるのがよく見られる。ノスリのつばさ下面にはこげ茶色の斑がある。



食べもの
ネズミ類、モグラなどをつかまえる。

サシバ *Butastur indicus* タカ科



カラスくらい
♂:47cm ♀:51cm

埼玉県RDB
繁殖絶滅危惧IB類(EN)

見られる時期
4~10月

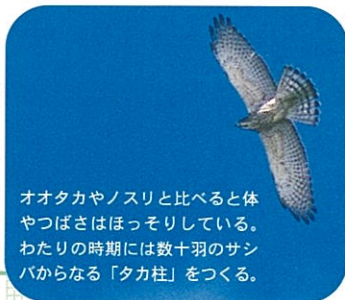
鳥類



成鳥

特徴

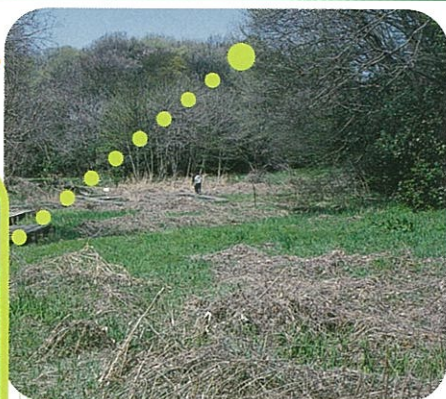
夏鳥。上面は褐色。下面は白っぽく、成鳥は褐色の横斑がある。のどに縦に一本の模様がある。9月末から10月始めに丘陵や低山をわたるものが多い。



オオタカやノスリと比べると体やつばさははっきりしている。わたりの時期には数十羽のサシバからなる「タカ柱」をつくる。

食べもの

カエルやヘビ、昆虫を食べる。田んぼや雑木林の減少にともないサシバも激減している。



見られる場所

林

2002年3月30日

林と湿地がセットになっている場所で生活する。



バッタやカエルをつかまえるとき、地面を走って追いかけることがあるよ。

●取り戻したいサシバのくらす自然



巣はアカマツなどの樹上につくります。かつて昔ながらの田んぼと林がたくさんあったころは、荒川沿いには多くのサシバが子育てをしていました。今ではほとんど見られません。

チョウゲンボウ *Falco tinnunculus* ハヤブサ科



ハトくらい
♂: 33cm ♀: 38cm

埼玉県RDB
繁殖準絶滅危種(NT2)

見られる時期
1年中



見られる場所
草はら

2003年12月5日

ひらけた草はらで生活する。

特徴

背は茶褐色。つばさはとがり、尾羽は長い。顔に黒い涙を流しているような模様がある。



空中で静止して飛ぶことをホバリングという。ホバリングをしながらねずみなどの獲物を探す。

食へのもの

ネズミを中心に小鳥、バッタなどを食べる。

よくカラスに追いかけられるけど、子育て中は、カラスを地面にたたき落とすこともあるんだって。

●都市にくらす



ビルにつくられた巣から顔を出すヒナ。



交尾

チョウゲンボウは本来、岩場に巣をつくりますが、近年、ビルや橋のすき間などにも巣をつくっています。

でも巣が見つかっています。

キジ *Phasianus colchicus* キジ科



カラスより大きい
♂: 80cm ♀: 60cm

見られる時期
1年中



見られる場所

草はら

草はら、林のへり、明るい林で生活する。頭が少し出るくらいの草丈の草はらを好む。



特徴

オスの顔は赤色。下面はつやのある緑色。メスは全体が黄褐色で黒のまだら模様がある。オスがなわばりをはる春さきは『ケーン、ケーン』と激しく鳴き、羽を打ちつけて『ドドドド』という音を出す。日本の国鳥になっている（お札にもデザインされている）。

名古屋名物の「きしめん」は、かつて名古屋地方で味噌に栄養をつけるためキジ肉を具にしためんを食べさせたことからついた名だよ。



食べもの
草のタネや昆虫などを食べる。雑食性。

●キジは一夫多妻

地面に巣をつくりまします。一夫多妻でメスだけが子育てをします。卵を抱いている母鳥は、たとえ火事が起きて逃げずに卵を守るとの伝説から「焼け野の雛」という言葉が生まれました。秋から冬にオス、メスがまざった家族の群れが見られます。

クイナ *Rallus aquaticus* クイナ科



ハトくらい
29cm

埼玉県RDB
越冬絶滅危惧II類(VU)

見られる時期
9~4月



成鳥

特徴

冬鳥。顔から胸は青灰色。頭から背にかけてはオリーブがかった褐色。くちばしは赤色。分類的にはツルに近い種類。



クイナは「水鶏」と書き、水辺にくらすニワトリ、という意味だよ。

食べもの

ミミズなどの底生生物を食べる。



見られる場所

水辺

2001年12月18日 上福岡市上福岡
(旧新河岸川)

ヨシやガマが生え、泥湿地のある水辺で生活する。

●鳥の俗名

クイナ類は、クイナとヒクイナが平安時代から「くひな」の名で知られています。「くひな たたく」(戸をたたく)と歌で詠まれたり、文に書かれたりしている「くひな」はヒクイナを指しています。ヒクイナが繁殖期の夜間、キョッキョッキョッキョと高い声で鳴くのをあらわしています。

一方、クイナは冬鳥のため、「ふゆくいな」と呼ばれます。

バン *Gallinula chloropus* ウイナ科



埼玉県RDB
繁殖率名色色集NT2

見られる時期
1年中



ハトくらい
32cm



見られる場所

水辺

2003年5月28日 東松山市早俣 越辺川
水草の生いしげる池や沼
で生活する。

●バンの子育て



先に生まれた幼鳥が、その年2回
目の繁殖で生まれたひなにえさを運
ぶなど、世話をすることがあります
(ヘルパー)。自分の卵を別のカツ
ルの巢に産んで子育てをさせる場合
もあります(種内託卵^{しゅないたくらん})。

特徴

くちばしは、夏は赤色、冬は黄緑色。
首を前後にふって泳ぐ。おしりの白
い羽はなかま同士の合図に使うと考
えられている。巢は水辺の草のなか
につくる。

バンには水がきがないん
だ。だから首をふって一
所懸命に泳がないと進ま
ないのがな。



食べもの
水草や小動物を食べる。

ムナグロ *Pluvialis fulva* チドリ科



見られる場所
水辺

2003年5月9日 さいたま市桜区塚本
田んぼ、湿地。水深が浅く昆虫の多い場所で生活する。

夏羽のとき胸が黒色
なので「ムナグロ」
というんだ。



食べもの

春の田んぼで発生するゲンゴロウやガムシの幼虫など、水生昆虫やミミズを食べる。



夏羽

見られる時期

4～5月
8～9月



ハトより小さい
24cm



夏羽

特徴

黒色とうすい黄色のまだら模様。秋は黄色が目立つ。数歩歩いては立ち止まる姿をよく見る。

●わたり鳥

ムナグロは、春と秋に集団でやってきます。さいたま市塚本などの荒川河川敷に広がる田んぼは、かつて千羽近くが飛来する、日本で最大規模の飛来地でした。多くのグランドがつけられたころから飛来数が激減しました。



コチドリ *Charadrius dubius* チドリ科

スズメくらい
16cm

見られる時期
3~10月

見られる場所

水辺

2003年5月28日 坂戸市赤尾

主に砂れき地で子育てし、
田んぼなどでも見られる。

●身をはって子を守る親鳥



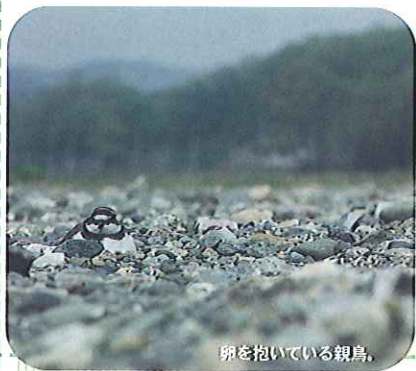
コチドリは、砂れきの地面に巣をつくります。ひなは孵化後、羽が乾くとすぐに歩けます。危険を知らせる親鳥の声でひなは地面に伏せます。親鳥は敵の上を飛びまわったりけがをしているふりをして懸命に敵の目をひながらぞらします。



成鳥

特徴

主に夏鳥。目のまわりは黄色、足はオレンジ色。額に黒色の模様、胸には黒帯がある。造成地、畑などの裸地でも子育てをすることがある。チドリ類の中では最も小さい。



卵を抱いている親鳥。

食べもの

甲虫類、バッタなどを食べる。

イカルチドリ *Charadrius placidus* チドリ科



スズメより大きい
21cm

増玉県RDB
繁殖絶滅危惧種(NT)

見られる時期
1年中



親子

特徴

姿・形はコチドリと似ているが、イカルチドリは顔の黒線が淡く、目のまわりの黄色が目立たない。また、イカルチドリの方が体と声が大きい。2月ごろには夜に「ピオピオピオ」と鳴きながらディスプレイフライト(求愛飛翔)を行う。



えさをあちこち探しまわるのでジグザグに千鳥足で歩くよ。

食べもの

ガガンボやガの幼虫など、主に昆虫を食べる。



見られる場所

水辺

2003年5月26日 熊谷市広瀬(大野生)

中流域の砂れき地で生活する。

●子育てをする場所の破壊



イカルチドリは、砂れき河原に巣をつくりまわります。ダムなどにより洪水が減り、かく乱や上流からの土砂の供給が減ったため、河原に草や木が生え、砂れき地が少なくなりました。そのうえ最近では河原へ4WDなどの自動車が入りこみ、イカルチドリなどが子育てをする場所が壊されています。

ヲゲリ *Vanellus vanellus* チドリ科



見られる場所

水辺

2003年12月5日 北本市高尾

荒川では主に湿った田んぼや泥地などで生活する。

 埼玉県RDB
越冬準絶滅危惧NT2

見られる時期

9~4月



ハトくらい

32cm



成鳥



食べもの

ミミズや水生昆虫、草のタネなどを食べる。

白黒のツートンカラーが目立つ。つばさは先が丸い。ゆっくりと羽ばたきながらフワッフワッと飛ぶ。

特徴

上面は緑色や淡い虹色の光沢がある。胸に太い黒帯がある。頭頂の長い羽(冠羽)が目立つ。おしりにオレンジ色の部分がある。チドリのなかま。「ミャー」と猫のような声で鳴く。

●冬の風物詩

かつては湿った田んぼや湿地がたくさんあったので、ヲゲリが大群で見られました。が今ではあまり見られなくなっていました。

